

“セーフティー&メンテナンス”ガイド

(M1710021)

タワージブあおり事故を防止するために

タワー仕様機において、始業前点検時にタワージブバックストップ周辺の損傷によって、タワージブバックストップが作動しなかったためにタワージブが後方へあおる事故が発生しました。

タワージブ長さが短い場合、タワージブバックストップの押し返し力が無いとタワージブが後方へあおり、重大事故に繋がる恐れがあります。

事故を未然に防止するために、下記の点に注意して始業前点検と機械の操作をお願いします。

1. 該当機種

LS-118RH5(#0830~)、SC800(LS-218RH5(#0190~))、SC1000(LS-238RH5(#0087~))、SC1500(LS-248RH5(#0107~))、SC2500(LS-368RH5)、SC5000(CT10000)、SC6500(CT12000)、SC500-2、SC500-3、SC650-2、SC650-3、SC700-5、SC800-2、SC800-2S、SC1000-2、SC1000-2S、SC1500-2、SC8000(CT15000)

KH300-3(#393, 394, 436, 441, 457, 458)、KH500-3(#264~)、KH850-3
CX1000、CX1800、CX2000

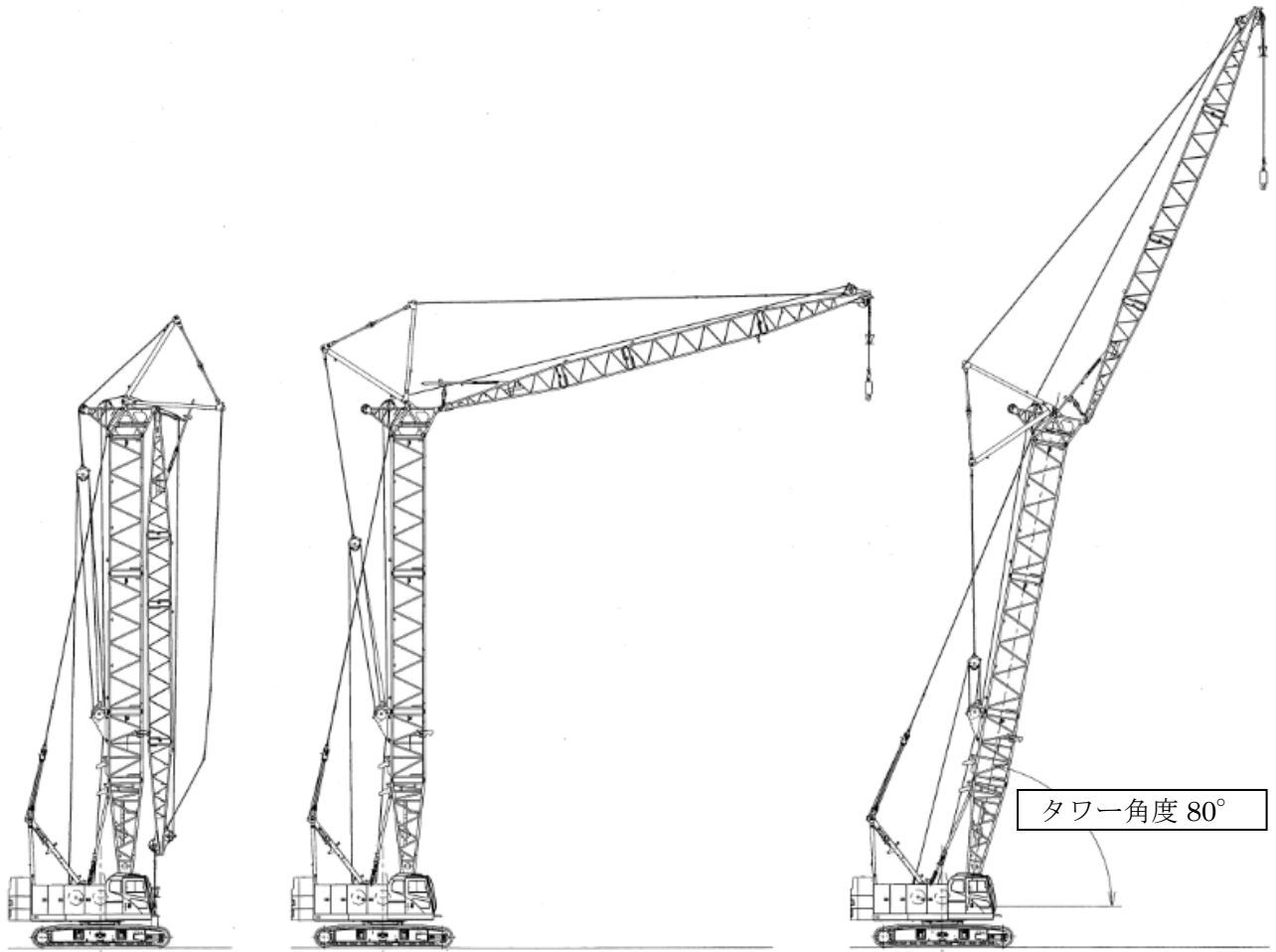
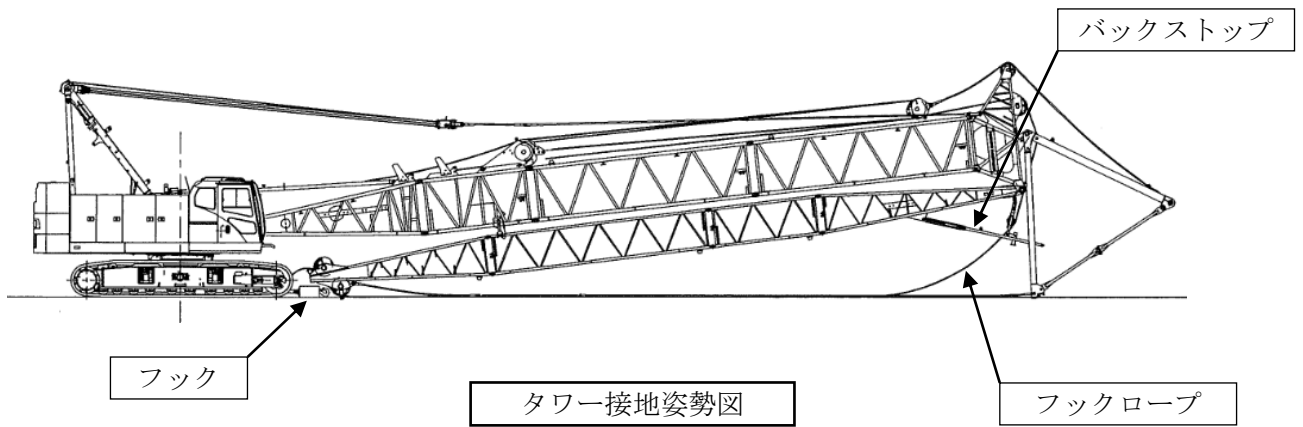
SCX500(CX500)、SCX550(CX550)、SCX700(CX650)、SCX900(CX900)、SCX900-1(SC900-3)、SCX1200(SC1200)、SCX2000(SC2000-3)、SCX3500(SC3500)

SCX700-2、SCX900-2、SCX1200-2、SCX2000-2

SCX700-3、SCX900-3、SCX1200-3、SCX2000-3、SCX3500-3、6000SLX

2. 事故防止のための注意点

- ★安全装置の電気回路が正常であっても、周囲の構造物が破損していれば、正常に作動しません。機械を使用する前に、構造物に損傷が無いこと、及び安全装置が正常に作動することを取扱説明書に従い確認してください。
- ★タワーの引き起こし、降下などクレーン作業時以外で、フックロープにフック質量を超える張力が掛かると、タワージブバックストップ周辺を含むアタッチメントが破損する恐れがあります。フックおよびフックロープが引っ掛からないよう注意して機械を操作してください。
- ★タワージブ過巻の作動点検は、タワー角度80°で必ず行ってください。タワージブバックストップ周辺が損傷した状態で、タワー角度が80°を超える角度で点検を行うと、タワージブが後方へあおり、重大事故に繋がる恐れがあります。



タワー起立姿勢図

タワージブ引起し姿勢図

タワージブ過巻点検姿勢図

ご不明な点がございましたら、最寄りの“サービス工場”または“サービスセンタ”にご相談ください。

●ご用命は右記サービス工場へ

 日立住友重機械建機クレーン株式会社